



平成23年度 (第26回)

5月22日 (金)

総会関連行事

会場・ワークイン二戸

終わる

10:40~11:50 定期総会

12:00~13:30 懇談会

本年度は、予定日間近になって祖霊者をお借り出来なくなりましたので、急遽会場をワークイン第1研修室に移して実施いたしました。(当日朝に、会長と中村誠氏がお墓の清掃をしお花を供えてお参りした)

本年も好天に恵まれましたが、何故か例年よりも参加者がひとときわ少ないように思われ残念でした。でも定期総会は、例により菅原孝平議長により行われ、ほぼ提案通りの可決と成って終了いたしました。

恒例の、金田一「歌の集い」の献詠は、次のように博士の和歌二首が歌われました。

板ひとつ 堺になせる 根の国に

父いますやと 呼べど応えず

※明治16年 (27才) 12月7日 父 (稲蔵) の訃報に接し、東京湾から船で郷里へ向かう途中の船上で…

※今船上、板子一枚は根の国 (あの世) きっとそこに父親が居られるだろうと思い、声を限りに叫んでも…

帰りても 帰り越えても 我が心

なぐさめかねき 末の松山

※明治16年12月12日 上の歌との連作と思われる

※一戸町で一番鶏を聞いた後、末の松山を超えたあたりで……

※やっと福岡も近くとなり、その昔盛岡に出る時、郷土の方々から別れを惜しんで頂いた懐かしい「末の松山」も越えたが…亡き父への強い思いはどうにも慰めることが出来なくて…

※7日に東京を出発し、12日に福岡に着いたこのスピードは、船以外に乗物の無かった時代の記録とされております。

化石の寝言 (2)

東大名誉教授 田中館 愛 橘

4. 40年後に来る大飢饉

前世紀の終わり 1898年に、万国測地学会へ行きかけ、英国の化学協会の年会で、真空放電の権威者リルックス博士の講演を聞いた。

今、南米から採っている重要肥料グアノはもう40年は続かない。50年経てば飢餓が来るといわれ、この農作救済に人糞利用その他が論じられるが、結局化学の実験室で解決されるだろうと大胆に声明した。果たして40年を待たずに窒素肥料が出来てから、南米のグアノはあくびをしている。

アルミニウムが全世紀の中頃に初めて出来た時には、1キログラム500円した。それが、今世紀の初めには只の50銭即ち千分の一に下がった。これは製造法が研究され、大量生産が容易になったからだ。これと反対にラジウムが初めて売りに出された時は、5ミリグラム6マルクでブフラー社が売り出した。それを聞いて、私が買った時は、急に倍の12マルク日本円で6円だった。日本に持ってきたらそれが500円の値になった。これはシンジケートがラジウム原料の山を買い占めてそうなった。

5. 空業即事業

電気事業会の大あたま藤岡市助が死んで、1年目の法事が築地の精養軒で行われた時、鎌倉の宗演法師が得意の説教をした。後で私にも藤岡の思い出話をせいという。そこで私が立って「只今、有名な和尚さんから、大変有難い仏様のお話を伺った。仏教の奥義は本来『本来クー』である。現在経済の行き詰まりで、大勢の人がクーに困っている。もし富岡君の如き腕利きの事業家が生きていてほんらい無東西、どこかにか南北アルト欧米の東西をかき回してこの行き詰まりを切り開いて食う道を付けてくれたらどれ程の人間が済度されるか知れない」と言ったものである。

昔は「武士は食わねど高楊枝」とやせ我慢したが、その裏は「食って後のご奉公」と本音を吐いた。結局、今日の経済問題の行き詰まりも世間では、これまでそっちのけに象牙の塔に叩き込んでおいた机上の空学者に呼びかけるようになってきた。この空学者の卵が専門を選ぶとき、「天文、物理など、そんなものを習ってどうして飯を食うか」と先輩にたしなめられたら「飯は茶碗と箸で食います」と答えた。

それで、「箸茶碗主義」というのはやり言葉が出来たことを覚えている。 (以下次号へ)

第3回 ローマ字書道コンクール

シビックセンターの「オープン10周年記念」(平成21年)の企画行事としてスタートした標記のコンクールがこの程実施されました。センターは、博士の誕生日に合わせて(平成11年)9月18日にオープンしており、それに合わせた形で市内の小中学校・高等学校に呼びかけ、夏休みの課題的取扱いとして実施されております。

今回の課題は、博士の作られた和歌「神路山 霞の奥を 踏み分けて 訪(と)わばや 木々の 花盛りを」のローマ字書き(博士の直筆)を分割して次のように定めております。

○ 小学校の部

※小学校の部は、「神路山」

Kamidiyama

○ 中学校の部

※中学校の部は、「霞の奥をふみわけて」

○ 高等学校の部

※高等学校の部は、「とわばや 木々の
花の盛りを」

Kasumi
no Oku wo
fumiwakete

Towabaya
Kigi no
Hana no
Sakari wo.

今回は思ったよりも応募数は少なく次のようでした。

○小学校…34点 ○中学校…44点 ○高等学校…12点

審査員は次の方々に厳正なる審査の結果次のように決定いたしました。

* 田中館愛橘会会長 丹野 幸男 氏 * 二戸市歴史民族資料館長 菅原 孝平 氏
* 同上事務局長 佐藤 綾夫 氏

○小学校の部 (金賞) 川上 凜 (石切所小5)
(銀賞) 田口 茜 (御返地小5)
(銅賞) 大向 翔太 (御返地小4)
(入選) 荒谷 琳子 (御返地小5)
國香真智子 (石切所小5)
小林ほのか (福岡小4)
高橋 樹生 (福岡小4)
千葉陽加里 (福岡小4)

Kamidiyama

—小学校の部 金賞 川上 凜さんの作品—

○中学校の部 (金賞) 三上 莉央 (御返地中3)
(銀賞) 佐藤 亜美 (金田一中2)
(銅賞) 田口かずみ (御返地中2)
(入選) 木戸口瑞歩 (御返地中3)
四戸岸悠磨 (御返地中3)
大向 沙弥 (御返地中1)
上平 奈奈 (御返地中1)
田口 里央 (御返地中1)

Kasumi
no Oku wo
fumiwakete

—中学校の部 金賞 三上莉央さんの作品—

- 高等学校の部 (金賞) 佐藤ゆきな (福岡高校1)
 (銀賞) 安田 朱織 (福岡高校2)
 (銅賞) 柴田 秀美 (福岡高校2)
 (入選) 下斗米 咲 (福岡高校2)
 陣場 彩織 (福岡高校2)
 深澤奈緒美 (福岡高校2)
 千澤 美春 (福岡高校1)
 馬淵 仁美 (福岡高校1)

Towa baya
 Kigi no
 Kana no
 Sakari wo.

—高等学校の部 金賞 佐藤 ゆきなさんの作品—

3回目ともなりますと、さすがに応募者の特殊な線に対する筆の「さばき」もだんだん慣れてきているように思われます。次回はさらに洗練された筆の妙味を期待したいものと望んでおります。入選作品（その他の作品も綴じて）はシビックセンター市民ホールに9月末まで展示の予定です。

その後の歩み

- 平成23年 2月 2日 第48回田中館博士記念児童生徒化学研究発表会後援
 21日 資料調査委員会 (於・シビックセンター)
 4月12日 22年度監査会 (於・シビックセンター)
 28日 理事会 (定期総会提出議案 他) 於・シビックセンター
 5月21日 第26回定期総会関連行事実施 (於・ワークイン)
 ○献 詠 (板ひとつ・帰りても の二首)
 ○定期総会 ○懇親会
 6月18日 ※国立科学博物館の先生2名来訪
 (来年の田中館博士特別展の資料の件)
 7月 6日 ※シビックセンター運営協議会に出席 (丹野会長)
 9月12日 ※第3回「ローマ字書道コンクール」審査会
 ※同上作品展示 (市民ホール 月末まで)

~~~~~あ と が き~~~~~

☆今年の夏も、猛暑・猛雨の年だったように思います。熱中症で搬送された人の数も日増しに増えているようです。ホントに天気の様子は、居眠りでもして人類のためにコントロールしてくれるのを忘れていたのでは…と思われてなりません。このようなことにふれるたびに思うことは、博士の「50年後の夢」の記述にあるように「軍備などを差し控えて、自然の敵なる地震・風雨・津波等に戦いを挑み征服したらどんなに世界が楽になるだろうか…」ということです。

かつて、国際連盟の中に「世界の平和を文化の力で…」と「知的協力委員会」を設置して取り組んだように、現在の国連の中に第一級の関係科学者を委嘱して「地球災害研究委員会」？を設置し、せめて台風の進行方向・強さ・降雨量や地震の予知・震度を多少なりともコントロール出来るようになったら被害も最小限に食い止められるのでは…とつい夢のようなことを考えてしまう。毎年お手上げで、ただただ後始末に追われているだけではナントモ…と思うのは私だけだろうか…。

人工衛星も自由に飛ぶ現代の科学力なら、何らかの手を打てるのでは…とズブの素人は考えてしまう (素人だからこそ考えられるのかも) それとも、地球 (宇宙) の営みに対して戦いを挑むことはタブーになってるものだろうか？

だとすれば、博士のおっしゃる夢は単なる「夢」なのかも…。博士の本心は「単なる夢」とせずに頑張rinaさい…と。

(8月末 記)

《会報のタイトルについて》

- *写真は昭和19年4月、文化勲章受章の時のものです。
- *氏名、サインとも博士の自筆であり、サインは絵やローマ字の書き物をなされた時に主として記しており、両方とも印鑑にしているものもあります。

《会報の発行について》

- *年2回発行 *編集者 佐藤綾夫 (事務局長)

《発行所》 田中館愛橘会

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡55
 二戸市シビックセンター内 ☎0195-25-5411
 F0195-23-3548
 (振替口座) 02350-8-18841

《印刷所》 沢倉印刷株式会社

〒028-6101 岩手県二戸市福岡字城ノ外38 ☎0195-23-3107